

2023年3月期 通期決算説明会 (2022年4月~2023年3月)

2023年5月19日

代表取締役社長 木村 有仁

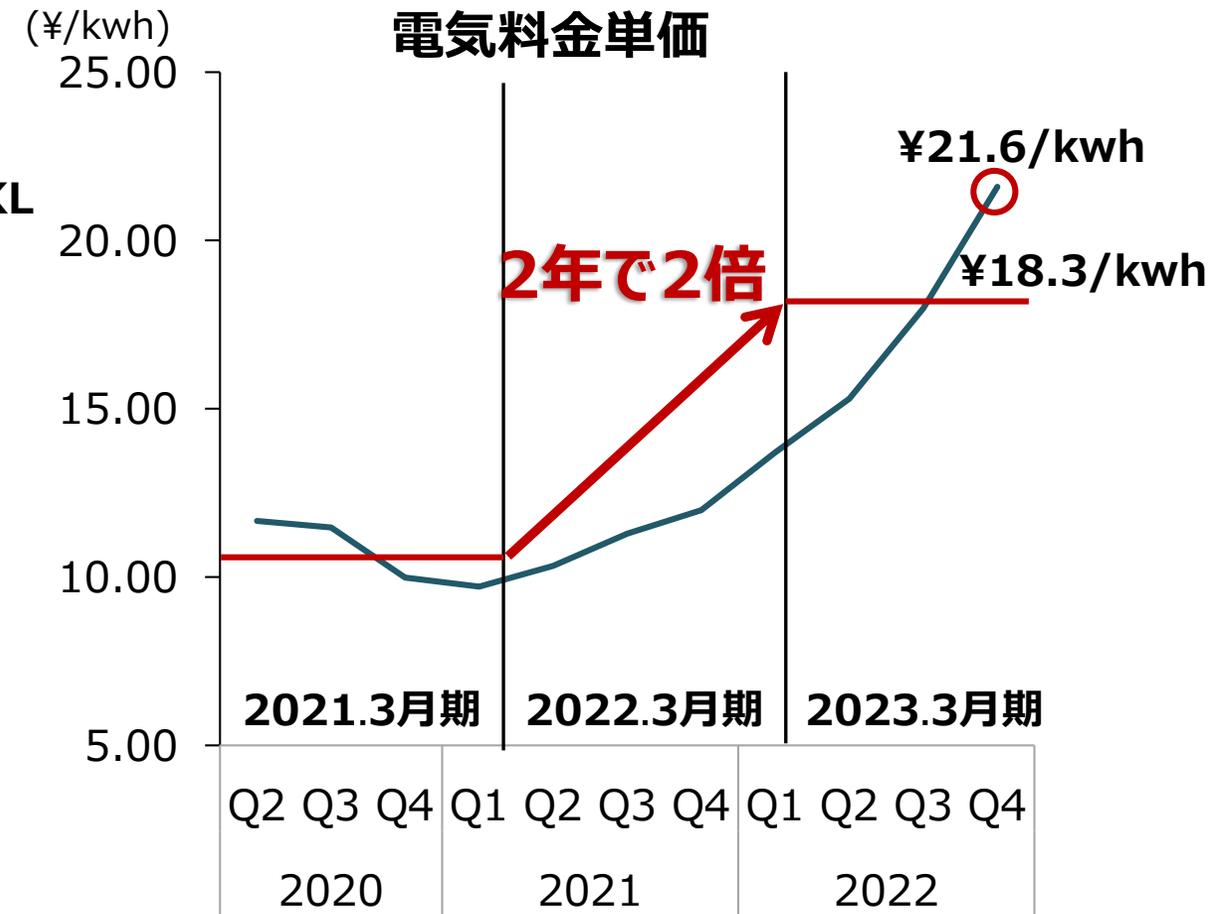
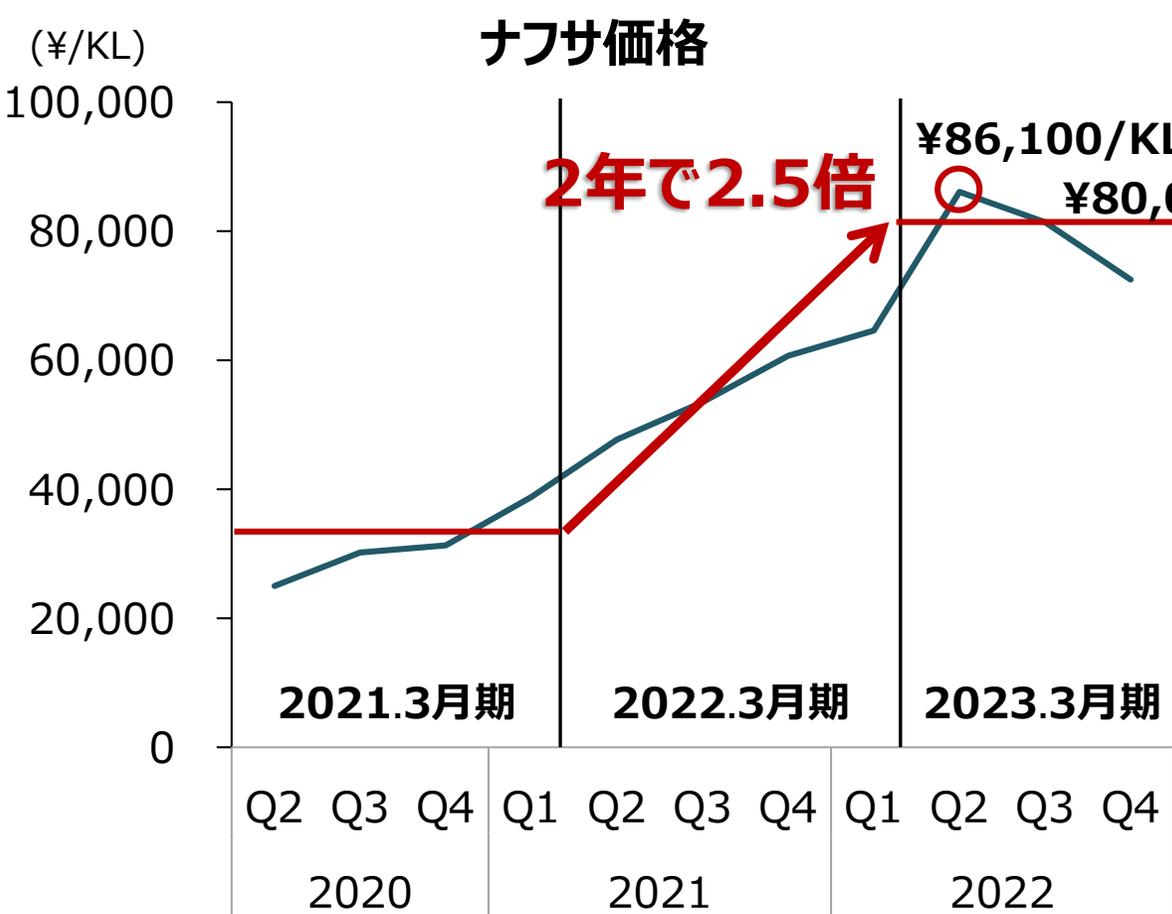
 東洋合成工業株式会社

1. 2023年3月期 決算概要

2. 2024年3月期 業績予想

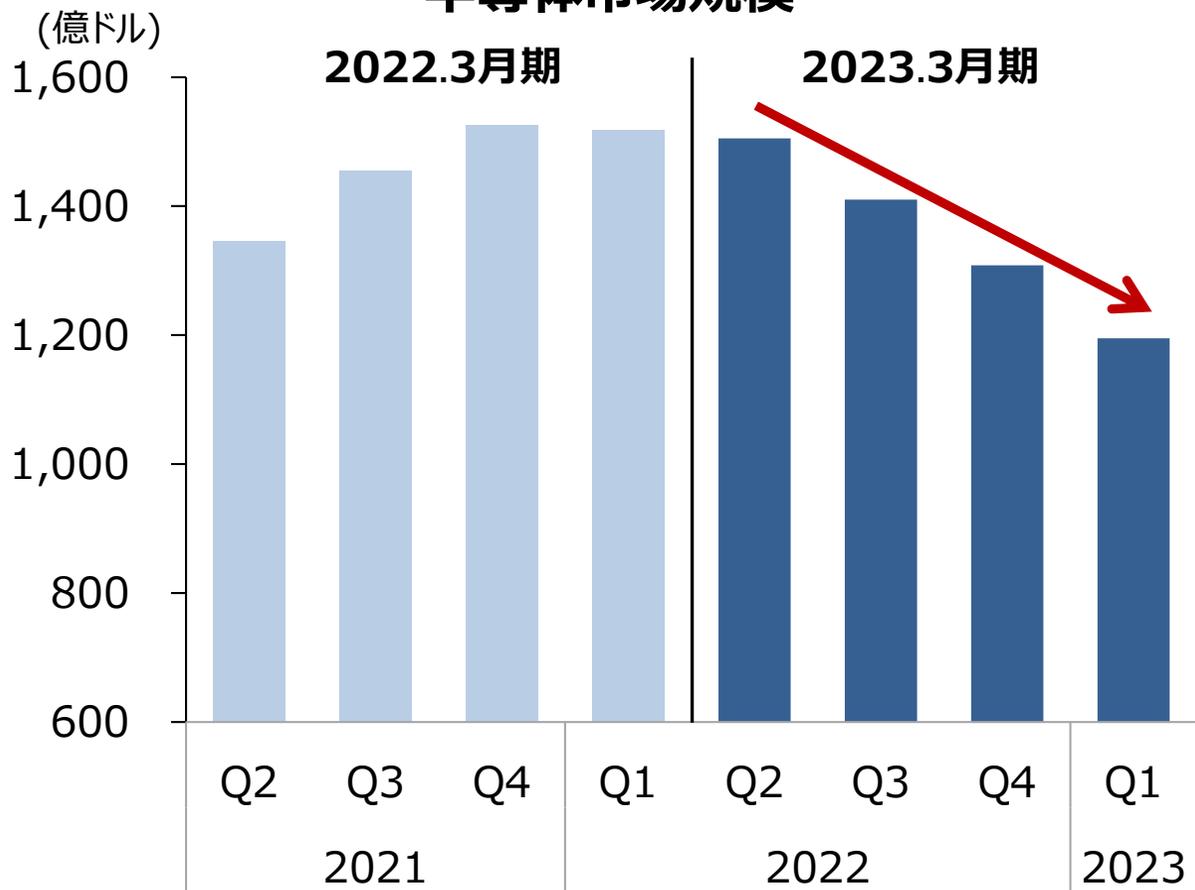
3. 中期の見通し

- ・コロナ禍からの回復、ウクライナ侵攻により世界的にインフレが加速。
- ・ナフサ価格は2年で2.5倍に高騰。ピークアウトしたものの資源価格は高止まり。
- ・電気料金は2年で2倍に高騰し、引き続き上昇基調。



- 2021年：コロナ禍の巣ごもり需要・物流混乱により、在庫需要を含め需要拡大。
- 2022年：消費減速と在庫水準適正化から需要減退。ただし、先端半導体は堅調推移。
- 2023年：4-6月を底に緩やかに回復傾向か

半導体市場規模



ディスプレイ面積需要

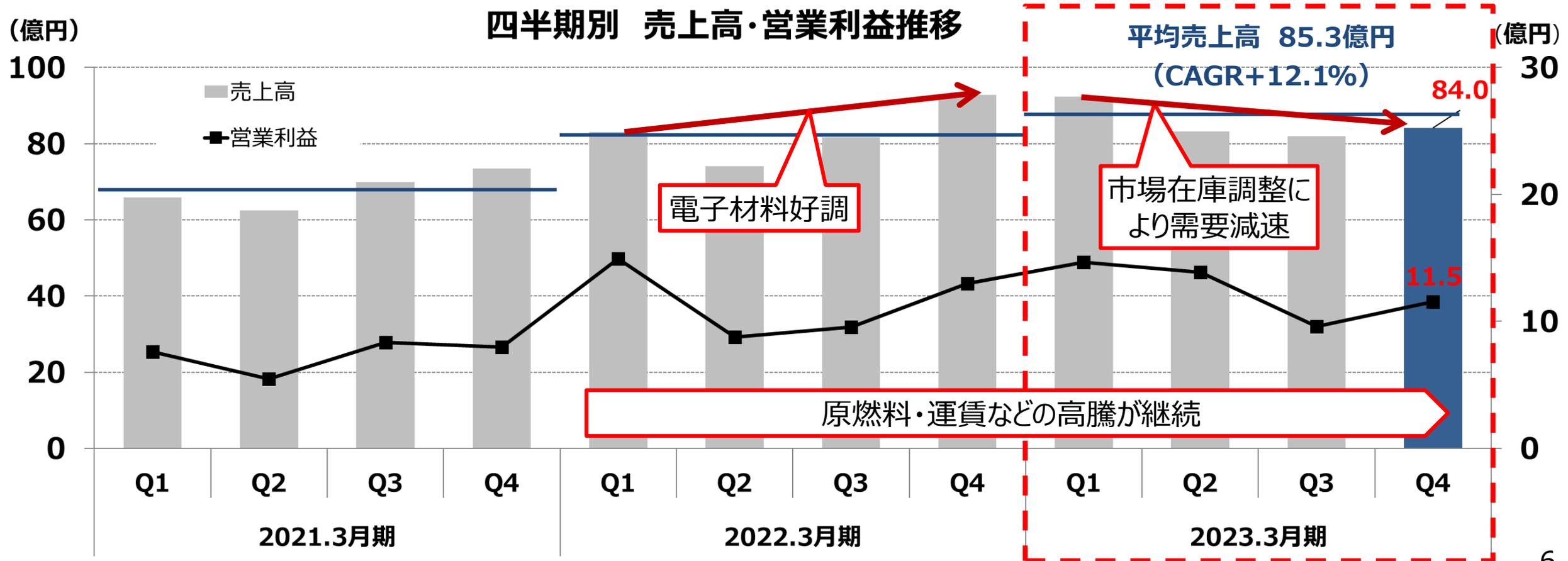


- 売上高は、一般品需要減退の中、先端半導体の強い需要に支えられ、前期比+10.1億円。
- 利益は、高付加価値品拡販、生産性改善により固定費増を吸収し、経常利益（前年比+7%）、当期純利益(前年比+11%)で過去最高。
- 業績予想比では、売上は未達ながら、経常利益、純利益は超過達成。

	2022.3月期 実績 (百万円)	2023.3月期 業績予想	2023.3月期 実績	前期比		業績予想比	
				増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	33,144	35,000	34,156	+1,012	+3%	△ 843	△2%
営業利益	4,624	5,150	4,968	+344	+7%	△ 181	△4%
経常利益	4,794	5,000	5,122	+327	+7%	+122	+2%
当期純利益	3,457	3,500	3,827	+369	+11%	+327	+9%
1株当たり当期純利益 (円)	435	440	482				
1株当たり年間配当金 (円)	30	40	40				
期中平均為替レート	¥112/\$	¥138/\$	¥135/\$				

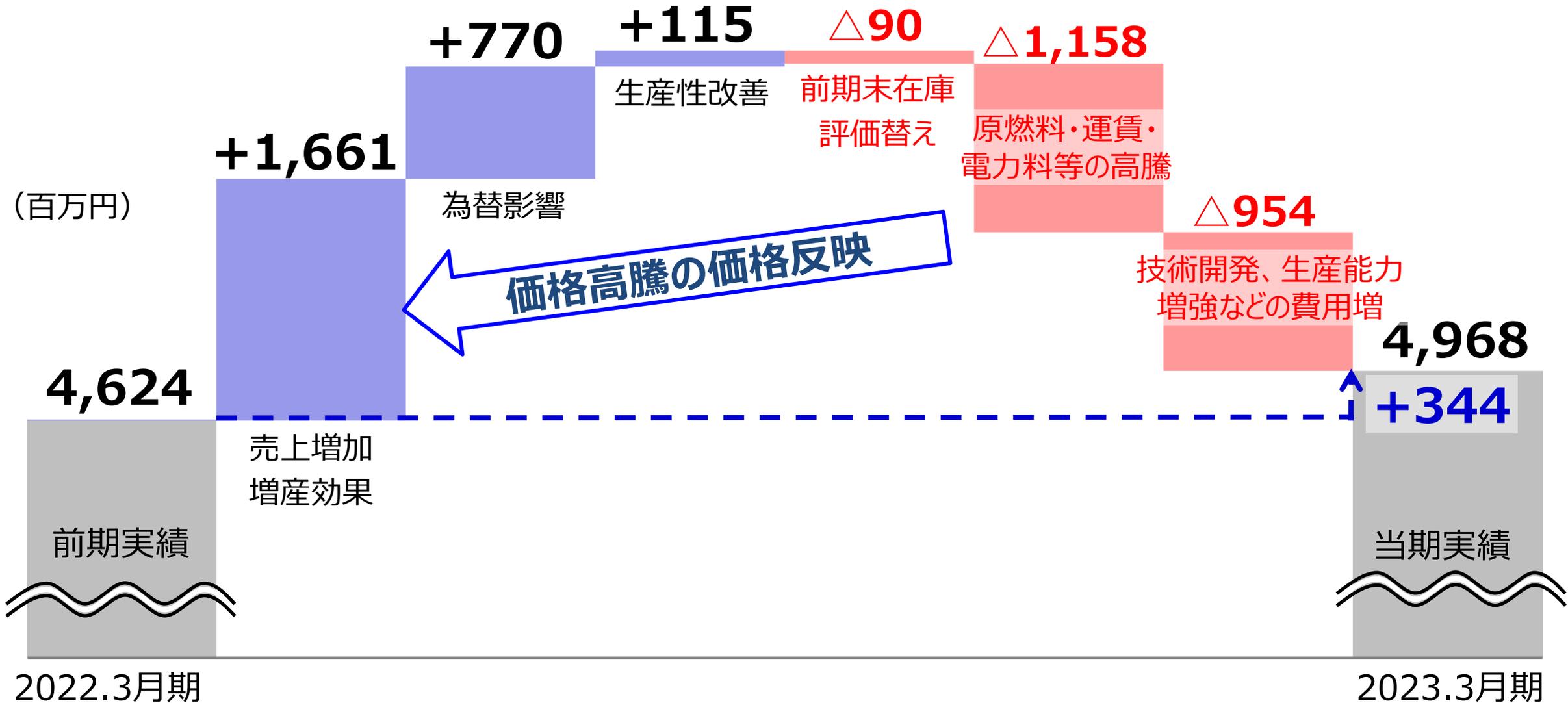
四半期別 売上高・営業利益推移

- ・直近3年間の年平均成長率は+12.1%と、売上は継続的に拡大。
- ・Q1をピークに需要減退の中、年平均売上高は前年比+3%を達成。
- ・Q4は売上・利益ともに前年比減。

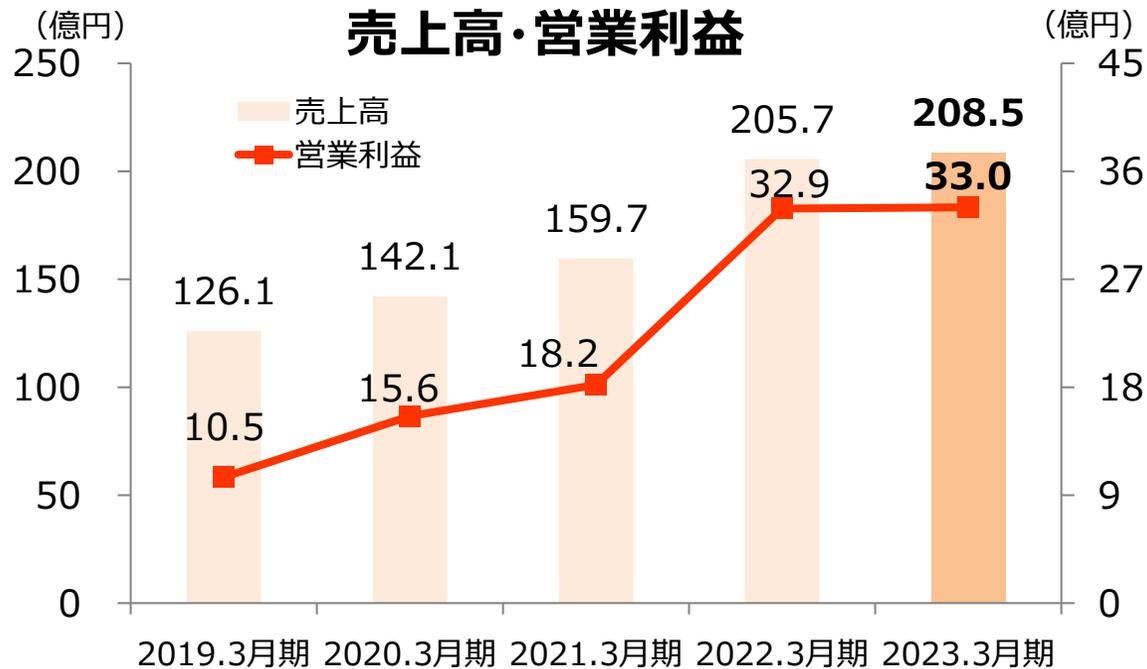


営業利益 前期比 増減要因

・高付加価値品の売上増により、原燃料等の高騰、固定費増を吸収し、+3.4億円。



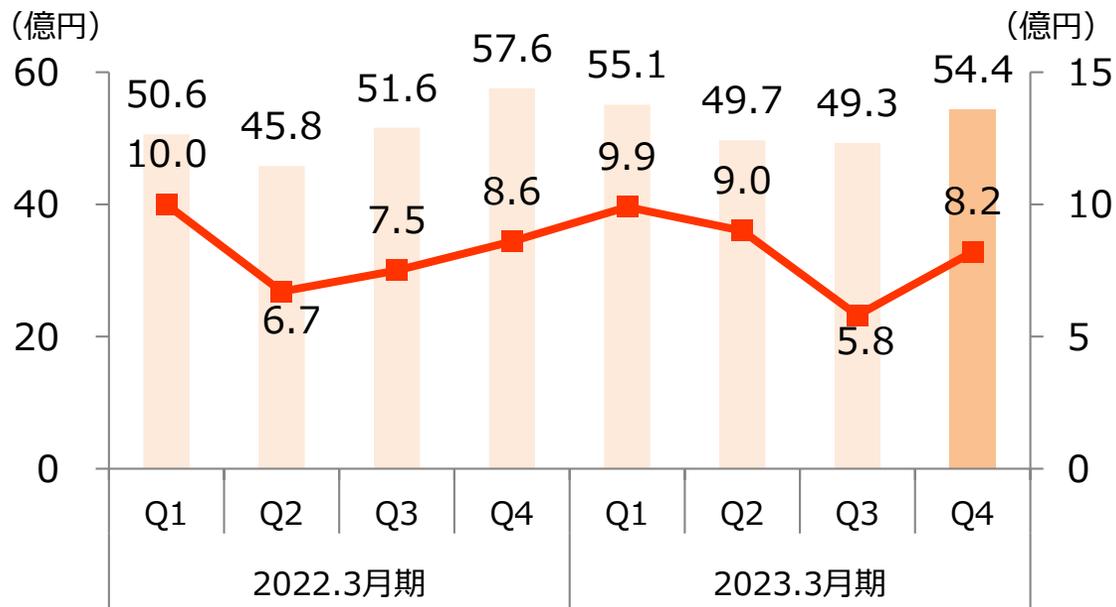
感光性材料セグメント



売上高：208.5億円

(前期比+2.8億円、+1.4%)

- ロジック半導体用途は需要拡大が継続。
- ディスプレイ向け感光材は在庫調整が発生し、需要が軟調に推移。
- 一般品は需要減退。

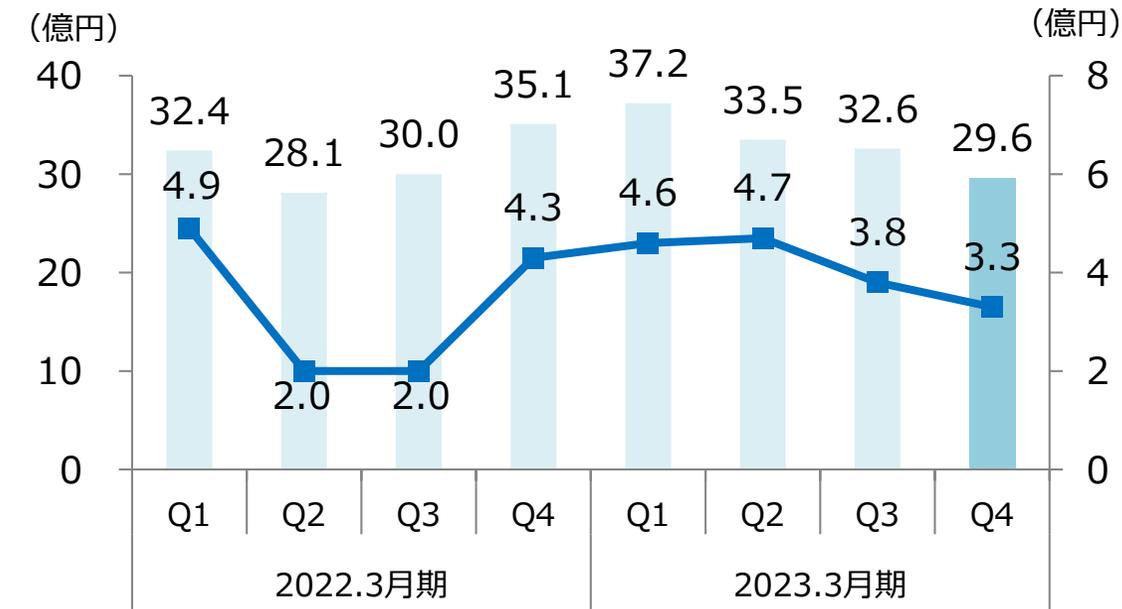
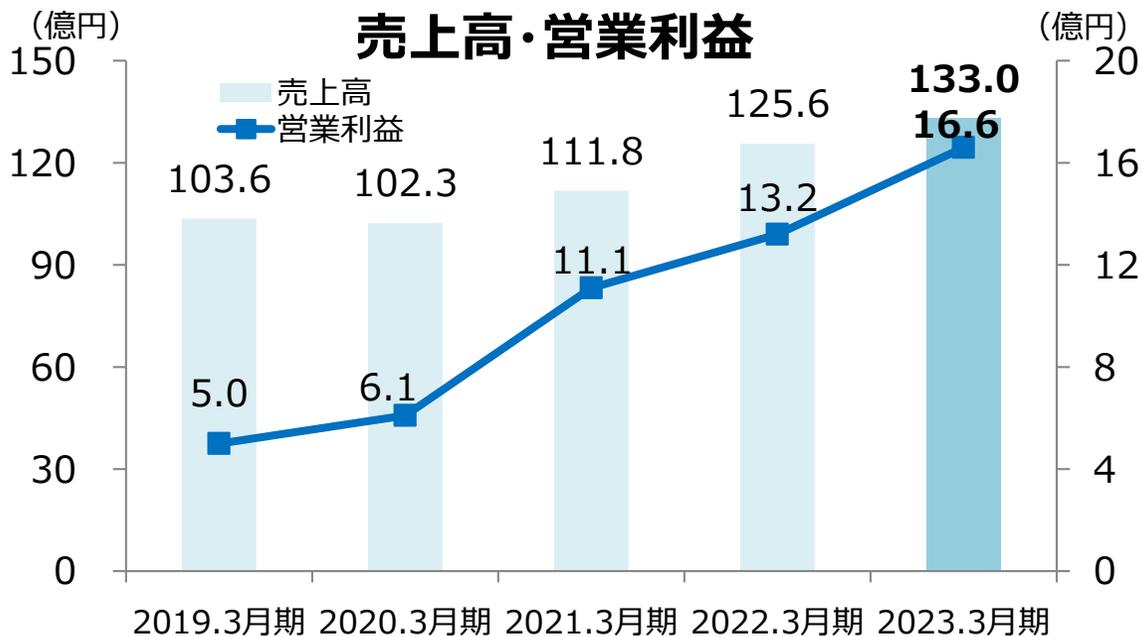


営業利益：33.0億円

(同+0.08億円、+0.3%)

- 技術開発や生産能力増強に伴う費用増を吸収し、前期水準維持。

化成品セグメント



売上高：133.0億円

(前期比+7.3億円、+5.8%)

- 半導体先端領域の高純度溶剤需要拡大。
- 原材料高騰に伴う価格反映も進捗。
- 一般電子材料、香料はインフレにより需要減退。
- ロジスティック事業は、自動車の減産などから溶剤荷動きが減少したが、タンク契約率は高水準で推移。

営業利益：16.6億円

(同+3.3億円、+25.3%)

- 高純度溶剤の販売構成比が増加。

2023年3月期 全社 損益計算書

- 売上高は、一般品需要減退のなか、高付加価値品の拡販で、+10.1億円 (+3%)
- 売上総利益は、原燃料高、固定費増を吸収し+6.4億円、売上総利益率1.1pt良化26.4%
- 営業利益+3.4億円(+7%)、経常利益+3.2億円(+7%)、純利益+3.7億円(+11%)

(百万円)	2022.3月期	2023.3月期	増減額	増減率	
売上高	33,144	34,156	+1,012	+3%	
売上原価	24,754	25,123	+368	+1%	
売上総利益	8,390	9,033	+643	+8%	← 売上総利益率26.4% 1.1pt良化
販売管理費	3,766	4,065	+298	+8%	
営業利益	4,624	4,968	+344	+7%	← 為替差益 前期215百万円 今期219百万円
営業外収益	323	305	△ 18	△6%	
営業外費用	153	151	△ 2	△2%	
経常利益	4,794	5,122	+327	+7%	← 経常利益率15.0% 0.5pt良化
特別損益	△ 57	△ 66	△ 8	-	
税引前当期純利益	4,736	5,056	+319	+7%	
法人税等合計	1,279	1,228	△ 50	△4%	
当期純利益	3,457	3,827	+369	+11%	

2023年3月期 貸借対照表

- 売上債権は、サイト短縮効果と4Qの売上高減少により△14.8億円。
- 棚卸資産は、在庫水準の適正化と原材料費高騰に伴う単価上昇により+36.7億円。
- 有形固定資産は、生産能力増強の設備投資により+22.6億円。
- 借入金は、前期末同水準の178億円を維持。
- 株主資本は、純利益の増加により+35.4億円。
- 自己資本比率も、上場来過去最高の38.4%（前期末+4.2pt）。

(百万円)	2022.3月末	2023.3月末	増減額	(百万円)	2022.3月末	2023.3月末	増減額
流動資産	19,766	21,685	+1,918	負債	30,824	31,463	+639
現金預金	3,681	3,252	△ 428	仕入債務	5,010	4,943	△ 66
売上債権	7,402	5,912	△ 1,489	借入金	17,819	17,893	+74
棚卸資産	8,080	11,758	+3,678	その他	7,993	8,625	+631
その他	602	761	+158				
固定資産	27,119	29,420	+2,300	純資産	16,061	19,641	+3,580
有形固定資産	25,376	27,639	+2,263	株主資本	16,007	19,556	+3,549
無形固定資産	511	607	+96	評価・換算差額等	54	85	+30
投資・その他	1,231	1,172	△ 58				
資産合計	46,886	51,105	+4,219	負債・純資産合計	46,886	51,105	+4,219

2023年3月期 キャッシュフロー計算書

- 営業CF： 36.5億円 税引前当期純利益は増加。在庫適正化による在庫増や設備投資の税制優遇減少により前期比21億円減少。
- 投資CF： △32.7億円 生産能力増強の設備投資は継続。

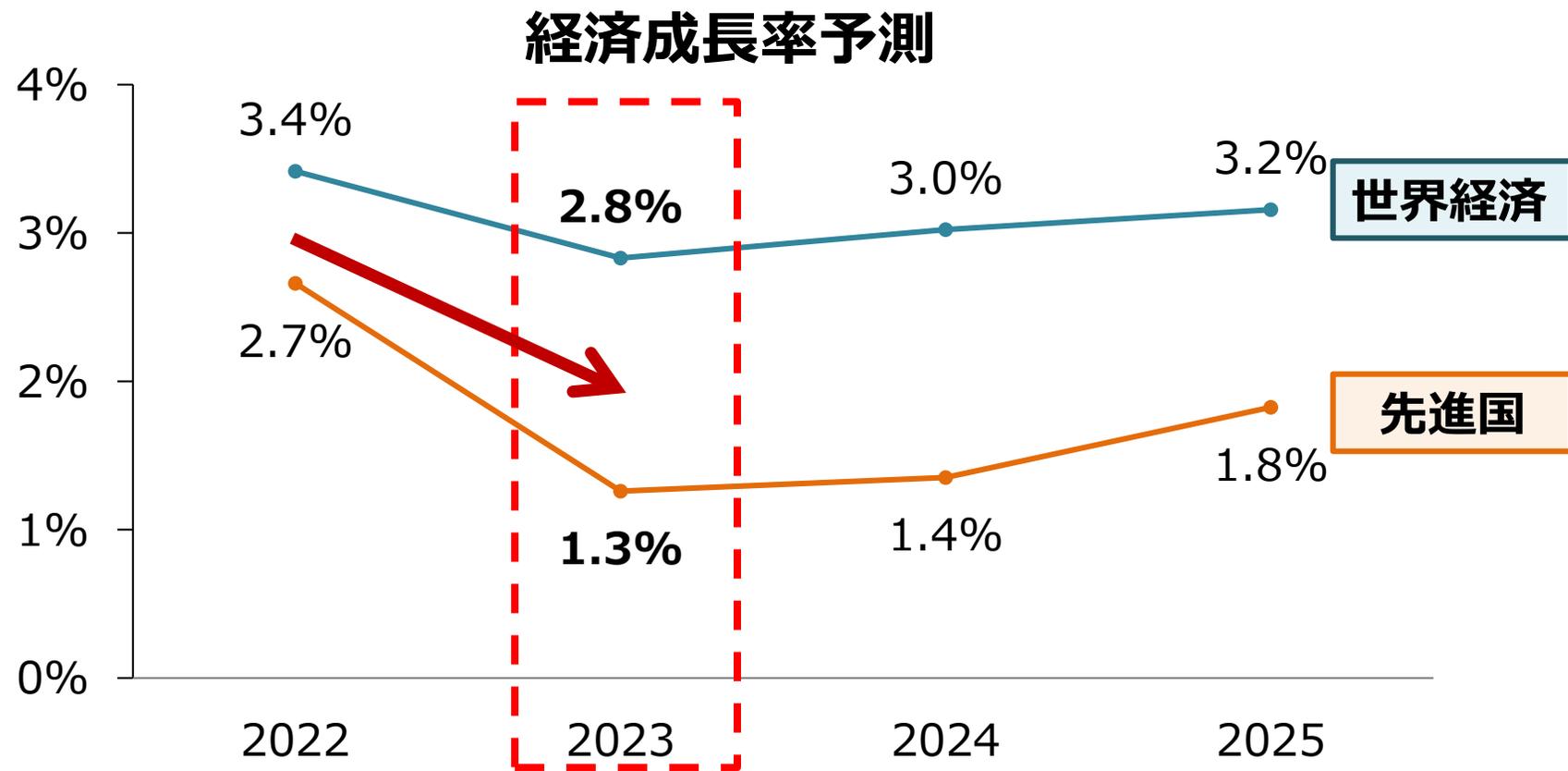
(百万円)	2022.3月期	2023.3月期	増減額
営業活動によるCF	5,808	3,659	△ 2,149
税引前当期純利益	4,736	5,056	+319
減価償却費	2,579	2,797	+218
売上債権の増減額（+は減少）	△ 2,015	1,489	+3,504
棚卸資産の増減額（+は減少）	△ 1,096	△ 3,678	△ 2,582
仕入債務の増減額（+は増加）	1,526	△ 62	△ 1,589
その他	77	△ 1,942	△ 2,020
投資活動によるCF	△ 3,415	△ 3,274	+141
フリー・キャッシュフロー	2,392	385	△ 2,007
財務活動によるCF	△ 2,563	△ 406	+2,156
現金及び現金同等物に係る換算差額	56	4	△ 52
現金及び現金同等物の増減	△ 113	△ 16	+96
現金及び現金同等物の期末残高	3,269	3,252	△ 16

1. 2023年3月期 決算概要

2. 2024年3月期 業績予想

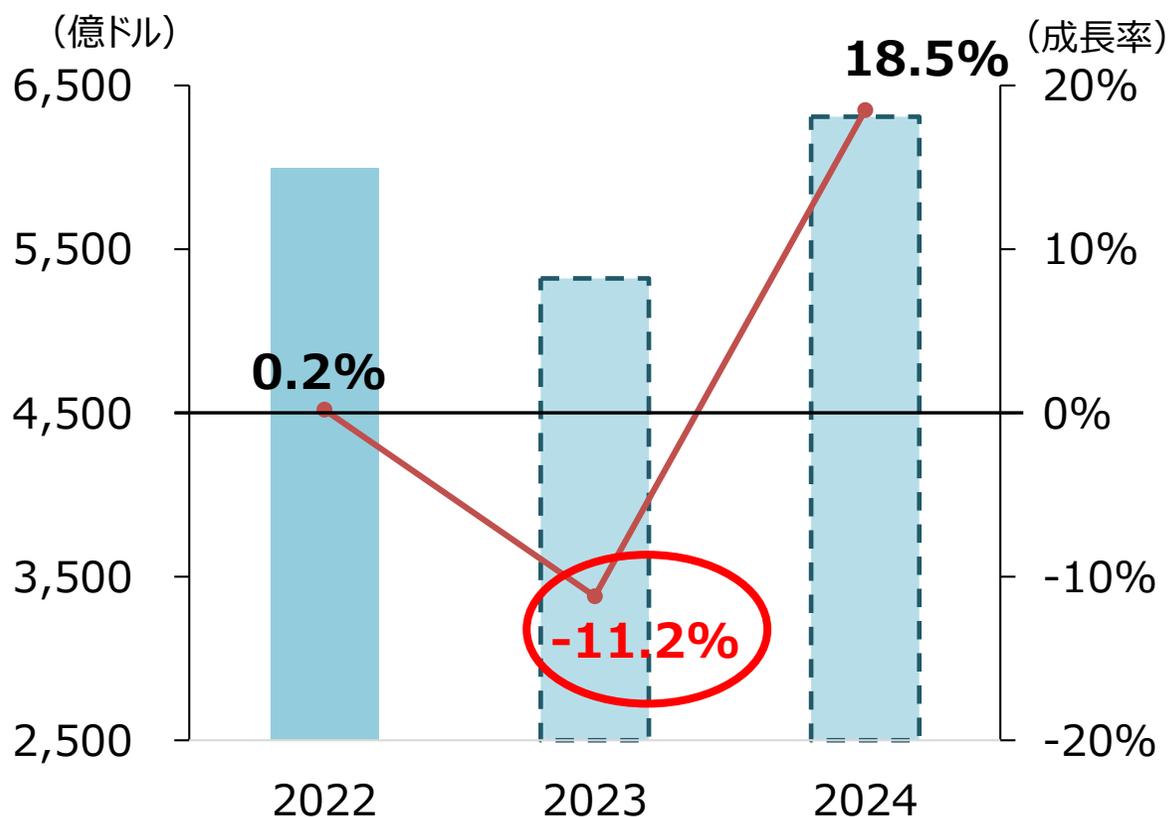
3. 中期の見通し

- IMFは2023年、ほぼすべての国で経済成長率が低下と予測。
- インフレの高止まりによる消費減速、政策金利引き上げの継続により景気後退。
- 金融不安などのリスクはあるものの、2024年以降緩やかに回復する見通し。

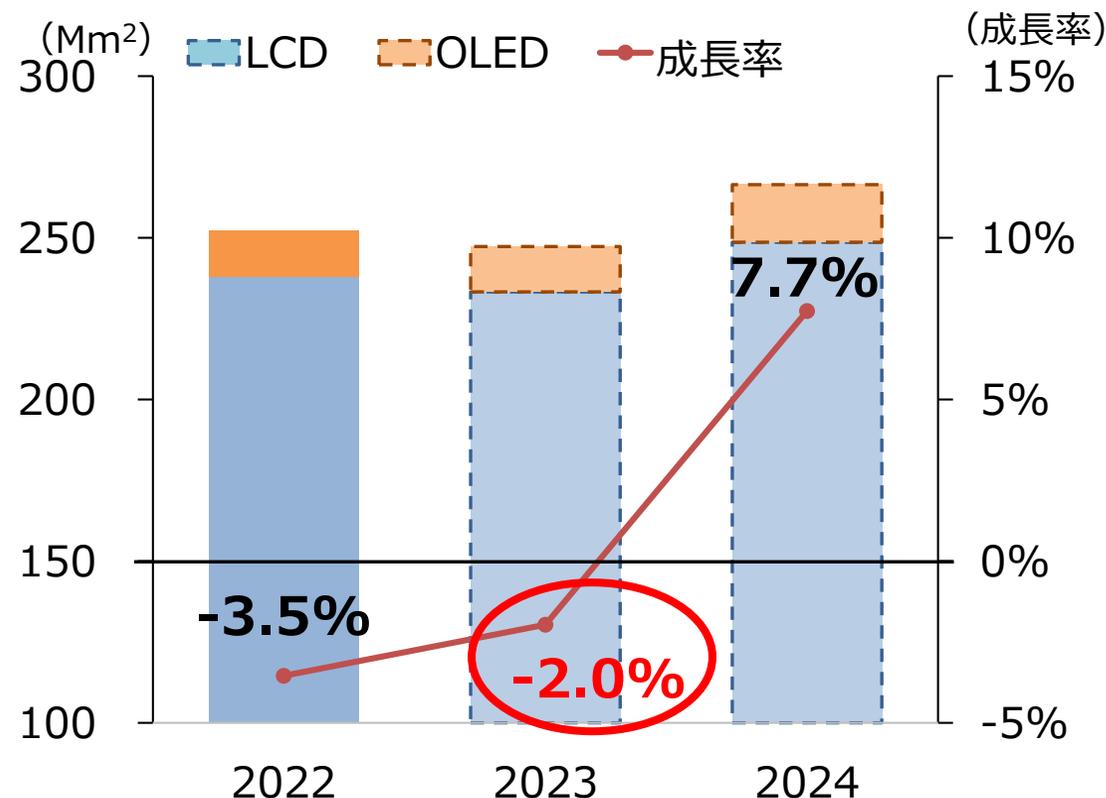


- 2023年の半導体市場は前年比-11%（Gartner）
在庫調整と消費減速により需要減退局面だが、下期以降の回復を見込む。
- 2023年のディスプレイ市場は、景気減速の影響を受けつつ、面積需要微減（-2%）
2024年以降回復する見通し。

半導体市場見通し



ディスプレイ面積需要見通し



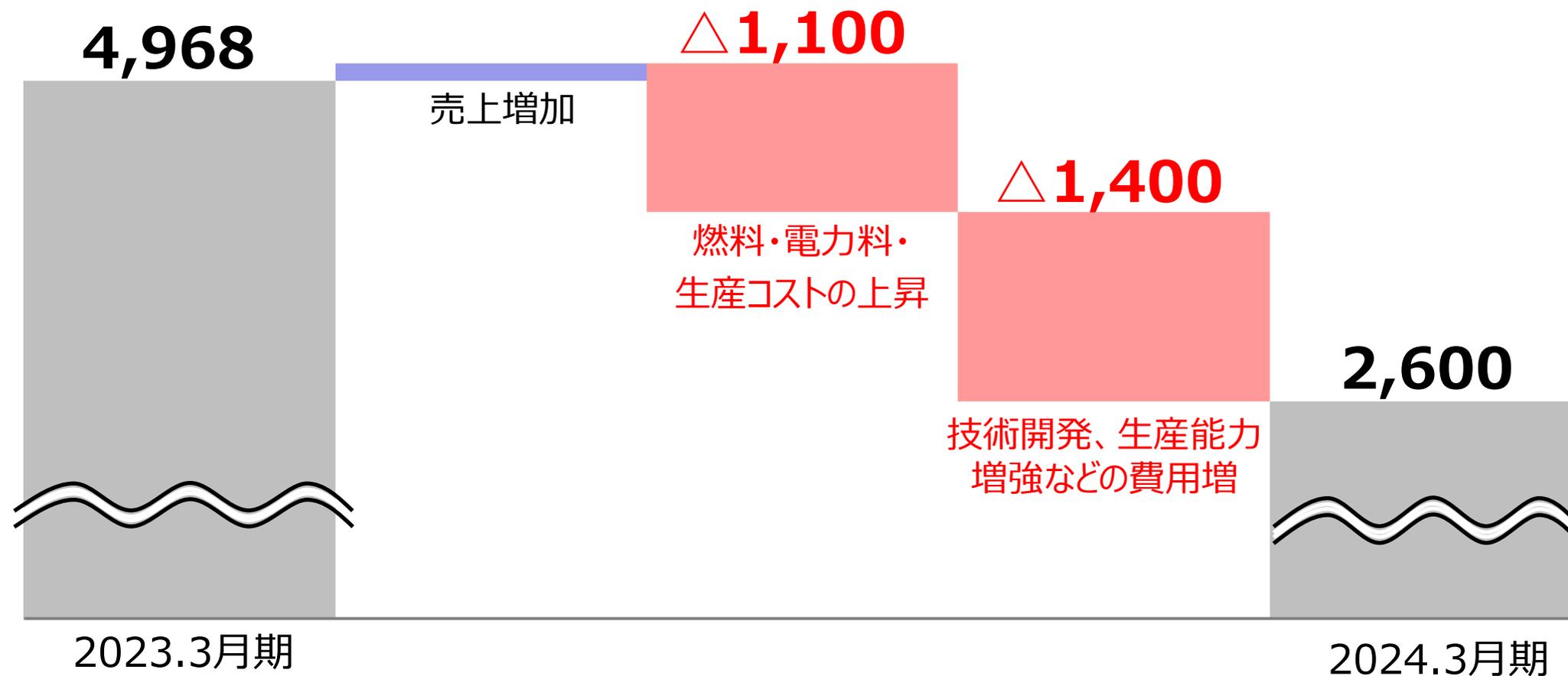
2024年3月期 業績予想

- 上期は、景気後退懸念が深まる中、需給調整により需要減退。
下期は、先端品を中心に緩やかに回復する見通し。
- 中期での需要拡大トレンドに変化はないため投資継続。
前期比で技術開発、生産能力増強などの費用増+14.0億円、燃料・電力料・生産コストの上昇を想定。

(百万円)	2023.3月期 実績	2024.3月期 業績予想	増減額	増減率
売上高	34,156	34,500	+343	+1%
営業利益	4,968	2,600	△2,368	△48%
経常利益	5,122	2,500	△2,622	△51%
当期純利益	3,827	1,600	△2,227	△58%
1株当たり当期純利益	482円	201円		
為替レート (USD)	¥135/\$	¥130/\$		

- ・ 前期比で技術開発、生産能力増強などの費用増+14.0億円、燃料・電力料・生産コストの上昇を想定。

(百万円)



Beyond500の達成（売上500億、営業利益80億@2027年）に向け、生産能力増強を継続。



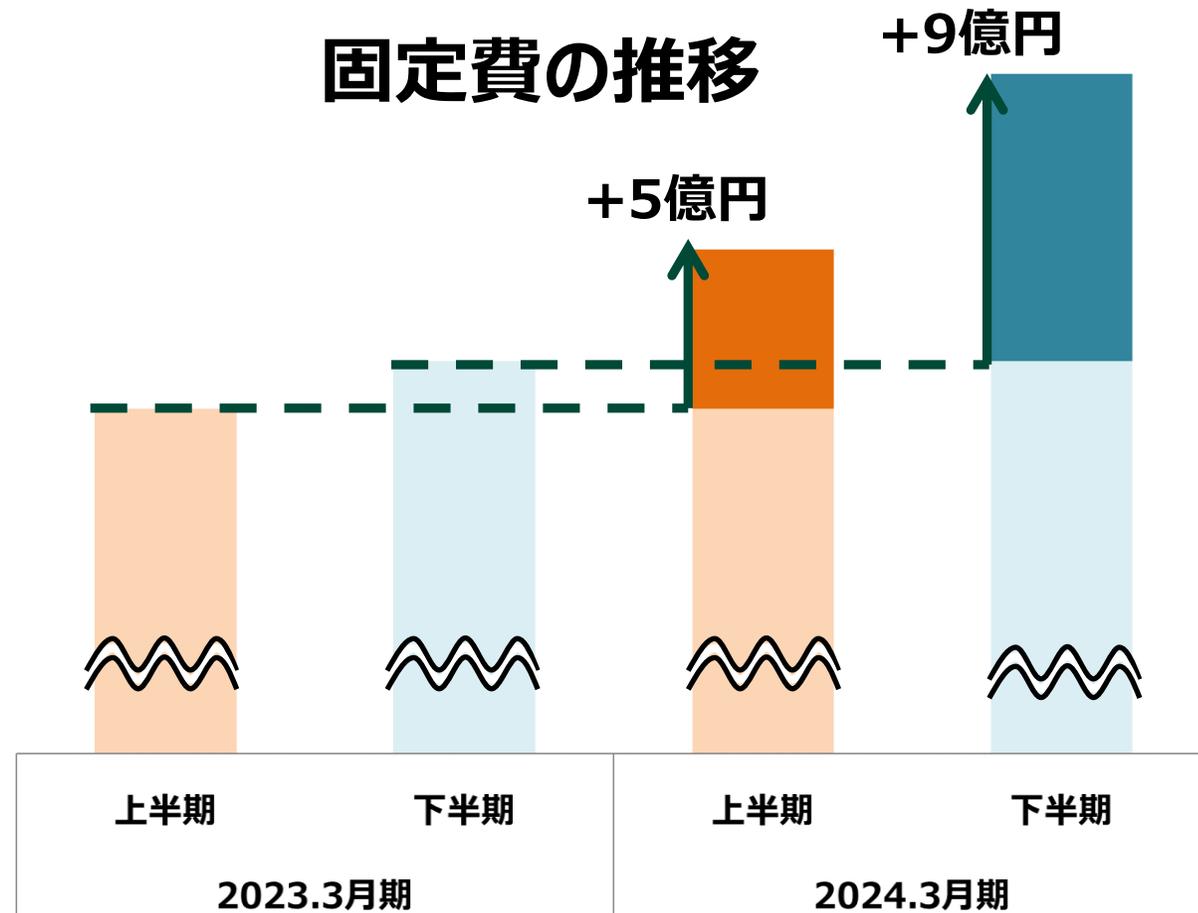
第4感光材工場設備増設
投資額 約120億円
2024年7月完成予定



開発分析棟
投資額 約30億円
2024年4月完成予定

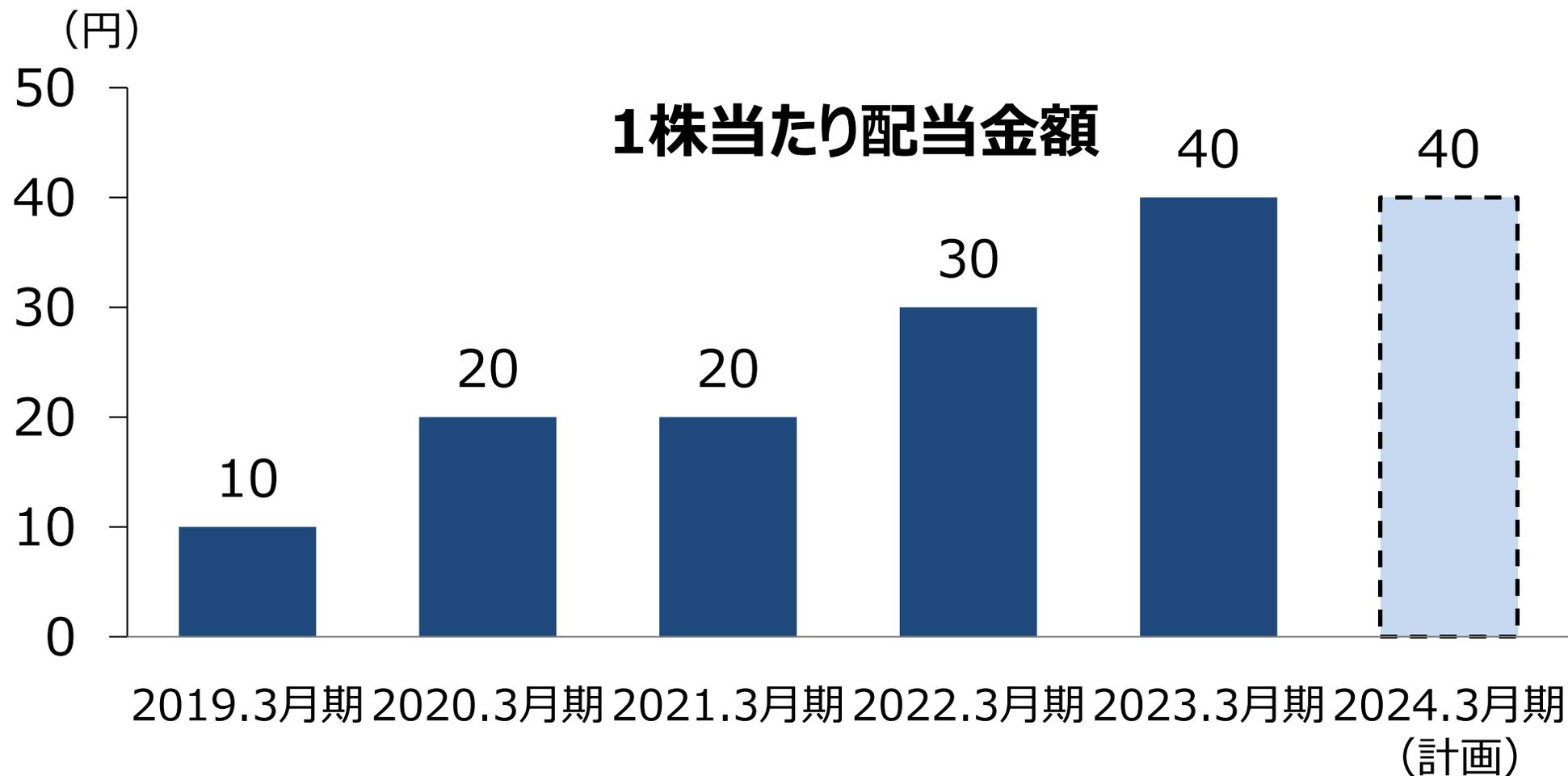
※完成予想図

前期比+14億円の固定費増を想定 (人員増、設備増強、技術開発)



株主還元、配当

- 安定配当を基本とし、中期的な成長を見込み、2024年3月期も年間配当40円を維持。



1. 2023年3月期 決算概要

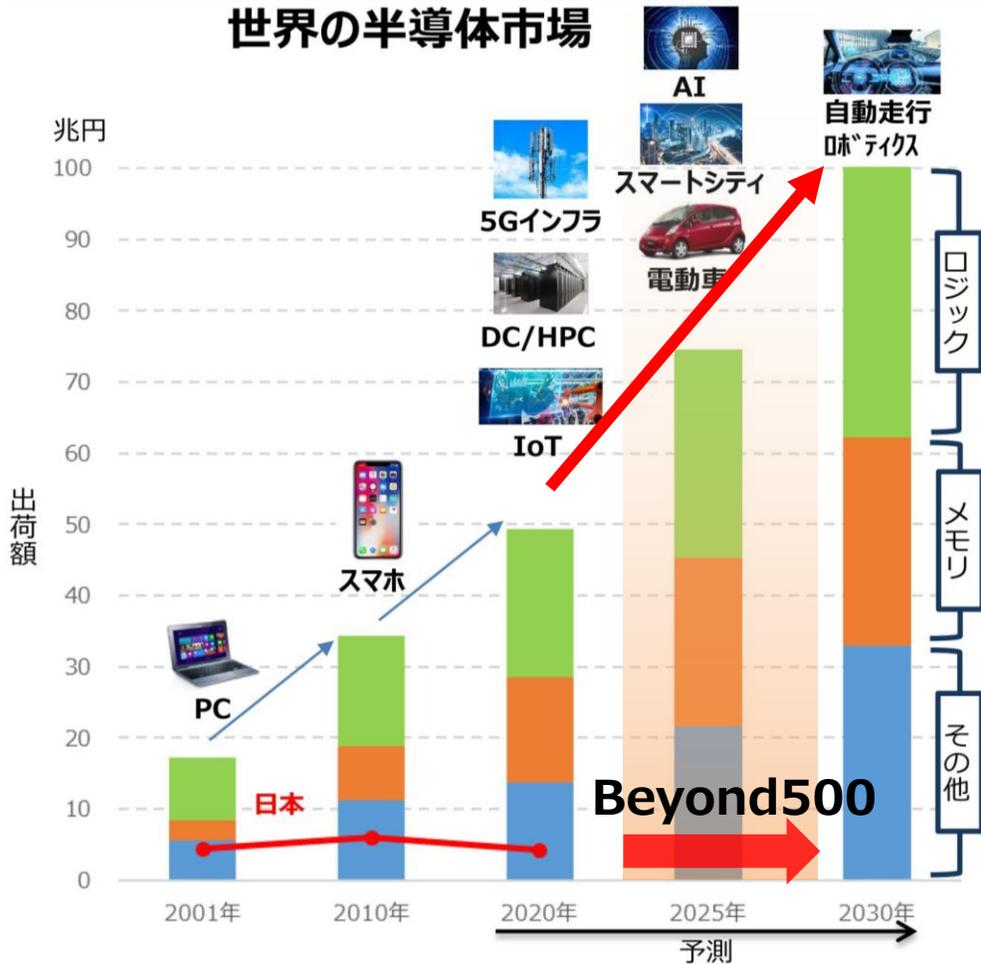
2. 2024年3月期 業績予想

3. 中期の見通し

2020年から2030年の半導体市場

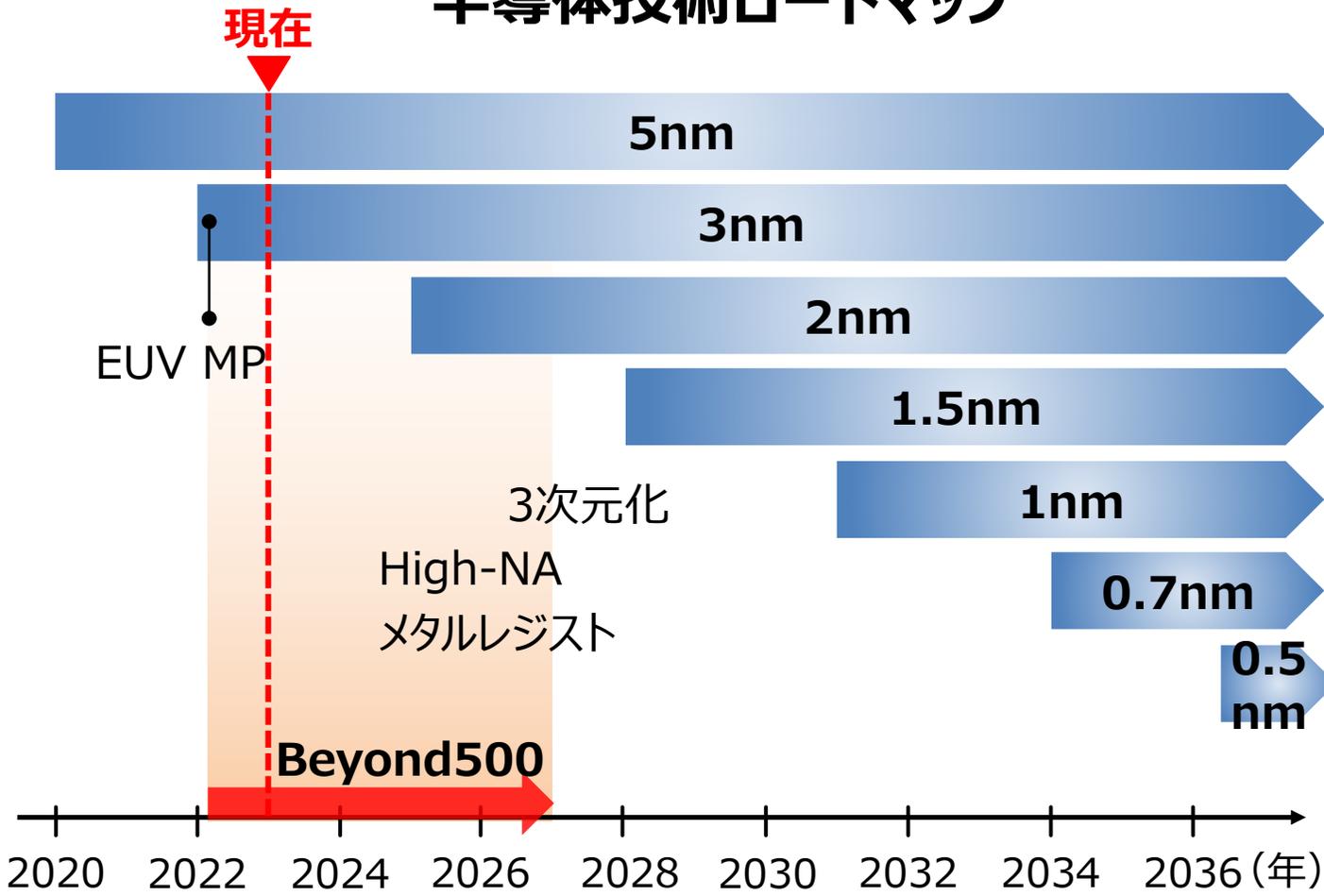
- 半導体が社会インフラの進化を支え、市場は2020年→2030年で倍増の見込み。
- 微細化の進展、次世代EUV/メタルレジストなど新技術の普及に伴い、更に高品質な感光材/溶剤が望まれ、製造技術をさらに進化させ、今後の業界の進化を支える。

世界の半導体市場



出所：経済産業省 半導体・デジタル産業戦略検討会議資料より抜粋

半導体技術ロードマップ

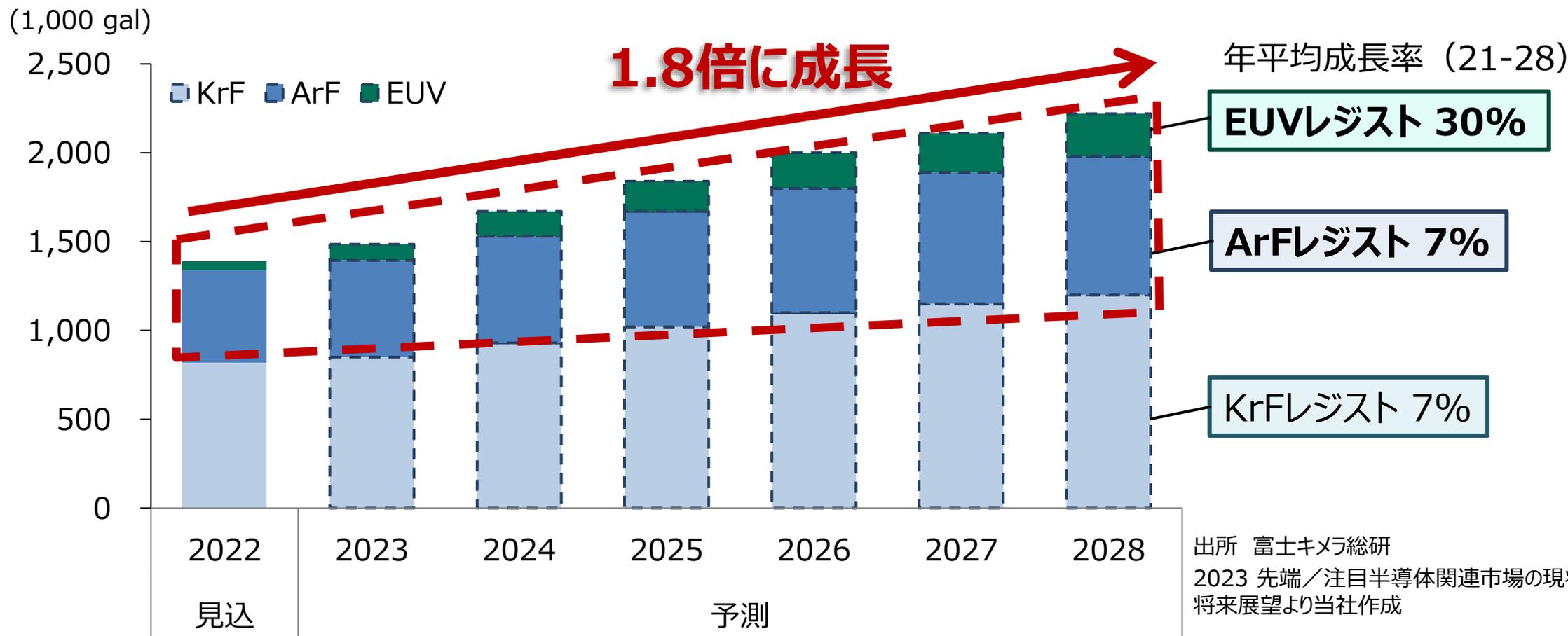


出所：IRDS2022より当社作成

半導体向けフォトレジスト市場の予測

- ・先端レジスト（EUV、ArF）の需要量は、2022年～2028年にかけて、1.8倍に拡大見込み。
- ・全領域で成長が継続。

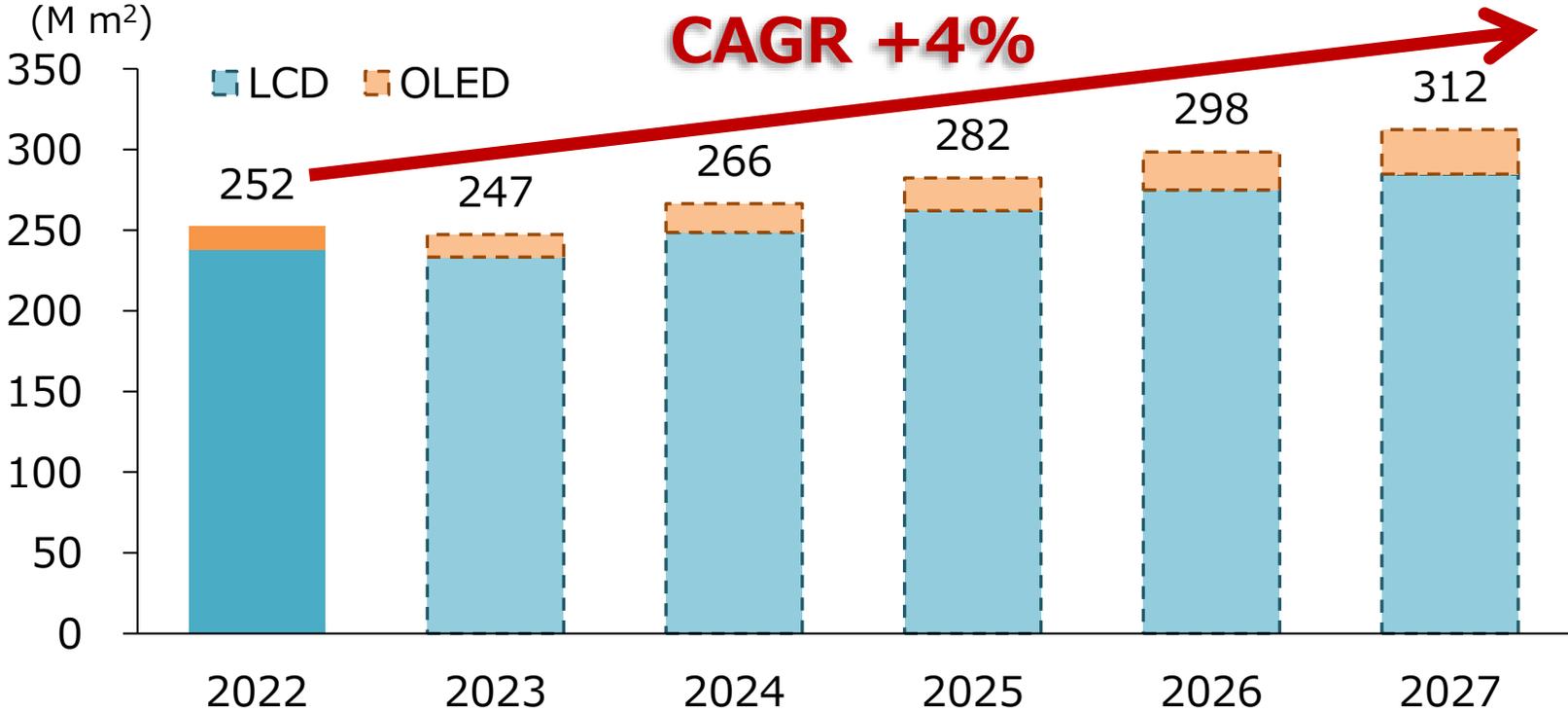
フォトレジスト市場の予測



ディスプレイ市場の見通し

- ・2023年の面積需要微減後は、緩やかな成長が続く見通し。
- ・TVの大型化、スマートフォンの有機EL搭載機種種の増加、高精細品普及により感光材/高純度溶剤の需要は拡大。

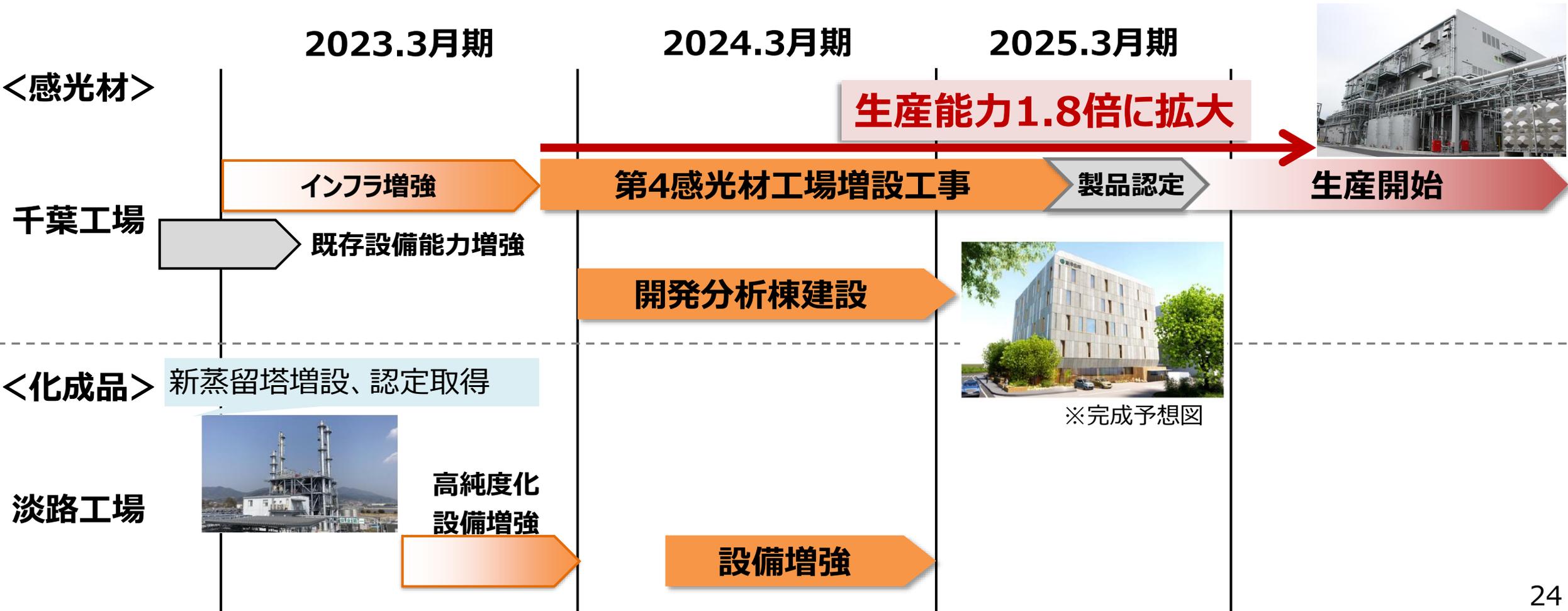
ディスプレイ面積の需要予測



出所
米調査会社DSCCより当社作成

中計「Beyond500」達成に向けて投資を継続

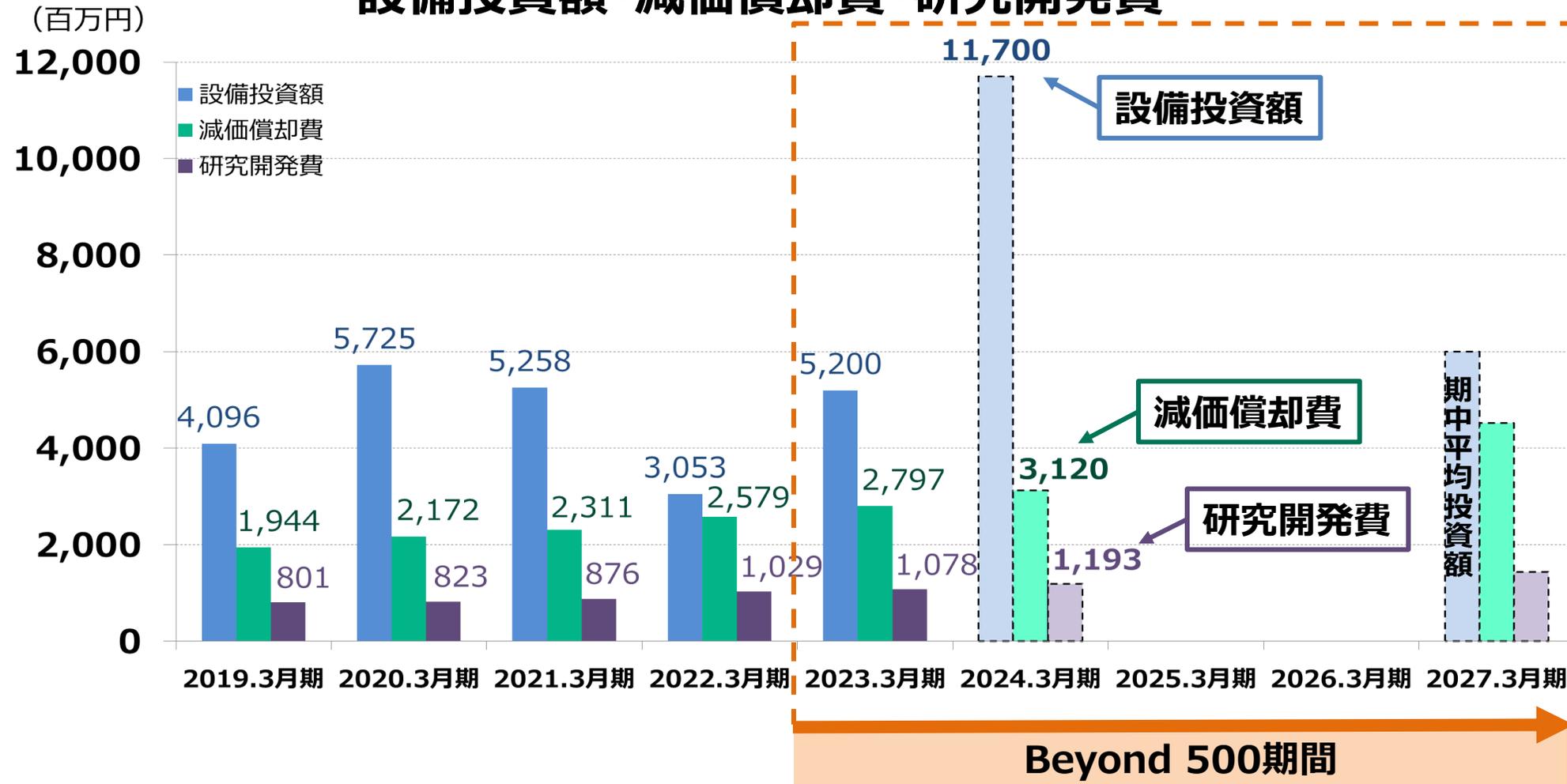
- ・半導体市場は2023年の生産調整から、2024年以降高成長へ回帰。
- ・拡大が見込まれる需要へ対応するため、感光材製造設備増設を決定。
- ・難易度が増す研究開発・分析体制強化のため、開発分析棟建設を決定。



設備投資・減価償却・研究開発の計画

- 2024年3月期は感光材製造設備の増設を中心に投資が集中し、約117億円の設備投資を計画。
- 電子材料の需要拡大に対応するため、インフラ増強を実施中。
- 研究開発は、生産性や品質向上に向けた製造技術力（分析/解析、工程開発、試作ライン）の強化を継続。

設備投資額・減価償却費・研究開発費



独創的な視点で世界へ

Individual Development, to the global Chemical

 **東洋合成工業株式会社**

(見通しに関する注意事項)

本資料の業績予想は、現時点において見積もられた見通しであり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。従いまして、実際の業績は、様々な要因やリスクにより、この業績予想とは大きく異なる結果となる可能性があり、いかなる確約や保証を行うものではありません。